

1. 評価結果概要表

作成日 2007年9月29日

【評価実施概要】

事業所番号	0872001003
法人名	株式会社 中内
事業所名	グループホーム 作谷長寿館
所在地 (電話番号)	茨城県つくば市作谷1038-23 (電話)029-869-1700

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年8月10日	評価確定日	平成20年1月15日

【情報提供票より】(平成19年7月26日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 17人, 非常勤 0人, 常勤換算 16.5人	

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,400 円	その他の経費(月額)	24,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

(4)利用者の概要(7月24日現在)

利用者人数	18 名	男性 7 名	女性 11 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名
要介護3	6 名	要介護4	6 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 63 歳	最高 95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	木村クリニック・筑波病院・いいつか歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの目の前に提携病院があり、裏手には森林が広がっており、自然が感じられる環境にある。居室の窓から、ボランティア協力のもと利用者と職員で一緒に育てた野菜畑が見え、大きくなるのを楽しみにしているとのこと。職員は利用者に対して丁寧な対応をしており、利用者の楽しそうな笑顔があり温かい雰囲気を感じた。同じ敷地内にあるデイサービス利用者との交流や、地域に還元したいという思いから、週1回近隣のごみ拾いを行うなど、地域に根付いたホームになるように全職員で取り組んでいる。また、ISOを取得し、良品質のサービスを提供する「長寿館ブランド」の構築を目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の主な改善課題として、地域の方がホームを理解していただけるように、ホーム便りを活用したり、運営推進会議を通して働きかけを行い改善に向けて取り組んでいることが窺えた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者を中心に、意見を出し合いながら全職員で取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、大勢の方の参加がありホームの事業内容や利用状況などの報告をしている。次回は評価に関して話し合いを行い、今後モニター役になってもらいたいと考えている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置や家族会を開催したり、家族から率直な意見がだせるようにしている。苦情については、管理者が窓口となり、常時受け付けている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小学校の運動会に参加したり、ボランティアや体験学習を受け入れたり、デイサービスの利用者との交流を図るなどし、地域との交流が図れるよう取り組んでいる。現在、地域との連携がより深まるように、町内会に加入できるように働きかけを行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の住民にもわかり易い表現で、事業所独自の運営理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンス等にて、理念に基づくケアを話し合い、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会に参加したり、体験学習やボランティアの受け入れを行っている。また、地域に還元したいと週1回近隣のごみ拾いを男性職員が行っている。	○	地域とのつきあいがより深められるよう、現在検討中である、町内会への加入に関する働きかけを行って頂きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果を、全職員で話し合い改善に向けて取り組んでいる。自己評価においても、全職員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6月に1回目の推進会議を行い、ホーム内を見学、ホームの事業内容や利用状況などを報告している。次回の開催予定や内容の検討もされている。		

茨城県 グループホーム作谷長寿館

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政主催の連絡会に参加することで、市町村担当者との話し合いの機会を持ったり、生活保護の方を受け入れている。まめに連絡を取り合うなどしながら連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に「長寿館だより」を発行したり、面会時や家族会、毎月の明細書郵送時などで、利用者の様子をお知らせしている。金銭管理は個別に出納帳をつけ、面会時に確認していただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、運営推進会議の場でも意見を出してもらうようにしている。家族会を設け、家族同士が集まり意見が出せるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動時には引継ぎを行い、利用者に対して負担が少ないように努めている。新人職員は、利用者となじみの関係が築けるように勉強できる期間を設けている。		引継ぎ時の情報を記録に残すことで、情報の共有が上手く図れるのではないのでしょうか。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修資料をファイルにまとめ閲覧できるようにしたり、カンファレンス時に研修の報告をする機会を作っている。研修の希望がある場合は、参加できるよう勤務に配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会に月1回参加しており、情報交換を行うなど交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が自宅を訪問したり、本人・家族に見学に来ていただいている。体験入居も可能である。隣接のデイサービスを利用されていた方の入居の事例があり、デイサービスに遊びに行ったりと入居後のフォローも行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	普段から利用者に教えていただく場面作りを心がけている。季節の事やしきたり、畑作りなど利用者から学ぶことが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族に協力を得ながら、センター方式を利用して情報収集を行い、ひとり一人の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意見、居室担当者、その他の職員の意見を取り入れ介護計画を作成している。作成後は、本人・家族からサインをいただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、計画の達成状況を確認し3ヶ月に1回見直しを行っている。また、心身状況に応じても計画の見直しを行い、家族からの希望や要望にも、その都度対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望に応じ、隣接のデイサービスの行事に参加するなど交流を図っている。ショートステイの受け入れも可能であり、家族が宿泊できる支援体制もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院の週1回の往診や、かかりつけ医からの情報提供をもとに支援している。必要時には、提携病院以外にも受診し、本人や家族が安心して生活できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族が安心できるよう話し合いを行い、医療機関と連携を図り、急変時の対応を職員は共通理解している。ホームでの共同生活が困難になった場合は、他のサービスを紹介するなどしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録の管理を徹底しており、家族との話し合いの場所にも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはおおまかに決めてあるが、朝食の時間を遅らせるなど、本人のペースに合わせた支援・希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物や食べたい物を聞きながら献立作りをしている。料理の下準備(皮むきや食材洗い)、テーブル拭き、食器拭き、下膳など、職員と一緒にしている。食事、職員と利用者が同じテーブルで楽しく食事をしてきた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ひとり一人の希望を聞きながら、支援している。入浴剤を入れて入浴を楽しめるような工夫もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	熱帯魚の餌やりや、花の水やり、戸締り、お茶入れ、裁縫、絵など個人の生活歴や趣味を活かした支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブしたり、スーパーに買物に出かけたり、近所を散歩したりなど、なるべく戸外で楽しめるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアを行っており、常に利用者の人数を確認している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を消防署立会いで実施しており、消火器の使い方も定期的に取り組んでいるが、地域の協力体制はまだ十分でない。	○	地域の方の協力を得られるような、ホームから働きかけと災害時のマニュアル作り・非常食や飲料水の備蓄の整備が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立で食事を提供しており、食事や水分量も記録している。食事量に制限のある方には医師に相談しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はとてども広々としており、畳のスペースやテレビの前にはソファが置いてあった。一仕事終えた利用者が、ソファで一休みしている場面があった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みものを持ち込み、利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。		